

2025 年 6 月 30 日

学校法人三幸学園
名古屋辻学園調理専門学校
校長 小林 邦弘 殿

学校関係者評価委員会
委員長 堀 潔

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 堀 潔 (株式会社ホーリープランニング 代表取締役)
- ② 平野 裕太郎 (第 8 期卒業生)
- ③ 柳 雄太郎 (飛鳥未来きずな高等学校 名古屋キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 26 日 (会場 名古屋辻学園調理専門学校 北館 4 F 4 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 名古屋辻学園調理専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 中野 幸

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 堀 潔

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、食分野の学校として「食を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、食分野として「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・長い目で見た学校づくり

同分野姉妹校の大阪辻学園とカリキュラム統一に伴い、一部授業のシラバスを整えることが出来た。

2025 年度は更に実態をふまえてさらなる整備を行い、より良い学校運営を目指したい。

・自分自身の役割を理解して成果を上げる

三幸学園として各教員に求めたい役割を全体会議や日々の声かけを通して都度発信と動機づけを行った。

今後はより踏み込んだ運営スタッフへの目的意識醸成や研修等を行っていききたい。

・より良い授業&指導の徹底

実習教員合同研修や分科会の活用は内容をより具体的に実施することが出来た。今後は IT 等新しい内容を活用し、生徒へより質の高い授業提供を実施していききたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

入学者数の実績や生徒指導の意識統一徹底から学校認知度の高まりや学校理念の浸透を実感しているが、生徒への育成人材像の浸透に関してはさらに高めることに課題がある。

② 今後の改善方策

「社会人育成の場」「技能と心の調和」の教育方針をふまえ生徒に「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」を授業実施前のオリエンテーションや週のホームルームで周知することを強化する。

③ 特記事項

教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

<堀委員>

開校2年目から本校に関わっているが、毎年良くなってきているように感じる。特に挨拶が良い。

今後も指導を継続してほしい。

<柳委員>

育成人材像の浸透に関しては、高校は進路先も就職、専門、大学進学等様々で、個人差がある為、難しい部分も多いが、社会人育成の場として今後も浸透に努めてほしい。

<平野委員>

実際社会に出て、学校で学んだビジネスマナー等しっかり活かしている。働いている場所で求められているニーズにもあった教育を受けることが出来た印象があるので今後も継続してほしい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

三幸学園グループのスケールメリットを活かし、学校運営に関する基盤は整っており、今後の業務効率化を見据えて新たな情報システムの導入が多く行われているが、生徒増に伴う教職員の増員により、全体としてのシステム適応が進み切っていない状況。また、教員の情報システムを活用した業務遂行が課題と感じている。

② 今後の改善方策

システムに関するマニュアルや三幸学園グループにて定まった運営方針・規則など現存する情報を定例職員会議、面談など利用し、全教職員へ情報共有を強化していく事で体系化して業務の効率化を進める。
また、教職員へは研修制度を設け、新規システム導入も含め効率化を図る。

③ 特記事項

姉妹校間で情報や資料を共有し全体的な業務効率化を行っている。また、就業規則や職員行動指針を共有することで、就業規則や勤怠の順守を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

<堀委員>

IT化が進む現状を踏まえると、今後生徒にタブレットを1人1台持たせることも検討が必要。

<中野副校長>

貸出やパソコンでの対応も検討している。

<柳委員>

高校でタブレットを使用しているので、すでに持っている生徒も多いのではないかと。タブレットは動画を見たり、レポートを提出したりしていて効率が良いので有効な活用方法を模索した方がいい。

高校では活用に不安な教員も数名いるが、問題なく対応できている。移行期は少し難しい可能性もあるがしっかりメリットなどを伝えることが重要だと感じる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

名古屋辻学園として、現場経験の豊富な教員にて調理現場にて必要とされている人材を育成するための教育方法の工夫をカリキュラムに反映させ作成することが出来ているが、課題としてより価値ある人材を社会に輩出できるよう教育課程の更なる体系化を進めていきたい。昨年度、姉妹校との技術研修を行ったが、回数が少ないので更に機会を作る。

② 今後の改善方策

生徒により価値ある学びを提供できるように教育課程を体系的に再構築していく。

企業連携等の強化と現場の状況理解のために卒業生の就職先など関連分野への訪問を継続的かつ積極的に行い、情報交換と連携の強化を図る。

また、分野における最先端の知識や技術などの情報は全教員へ研修などを行い生徒へ還元する。

③ 特記事項

技術授業担当教員向けの研修（内部 2 回・姉妹校合同 2 回）を実施

教員力、技術力アップを定期的に図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜柳委員＞

本校では全国で教科会等を実施している。

研修はオンラインではなく、実際に集まって実施しているのか？

＜廣畑さん＞

部門内と姉妹校合同で計 4 回実施している。

＜堀委員＞

自身の会社では、先輩の授業を動画で見るなど、実際の内容を見せることで教員のスキルを向上させる

研修を行っていた。それぞれの強み・弱みを知るためにも今後も研修は継続してほしい。

＜平野委員＞

調理技術や知識はしっかり教えてもらったので、今の現場でとても役に立っている。インターンシップは就職前のギャップを理解するのにとてもいい体験ができていたのもっと薦めてほしい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

求人数は増加傾向で、卒業年次生徒数に対しての求人数は担保できているが、卒業生との連携に弱い部分がある。
1年生の退学率が高い状況が続いている。

② 今後の改善方策

就職先への定期訪問や、卒業生とコミュニケーションをとるためのツール浸透を強化。
各企業に評価を頂くとともにコミュニケーション頻度を上げて卒業生の活躍や評価の把握に努め、シラバスへの反映を実施。退学率に関しては、生徒とのコミュニケーションが取れる時間をより多く担保する中で、担任制度を有効的に活用して生徒の状況を把握し退学防止策をとる。

③ 特記事項

クラス担任制にした結果、生徒との関係性が高まり、前年度より退学率は低下。

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜堀委員＞

検定を今後増やしていく予定はあるのか？

＜中野副校長＞

上級調理師科では HRS やサービス接遇検定等、任意で取れる。日々授業をしている中で、学校としてどのように機会を与えていくかが今後の課題。

＜堀委員＞

検定等をもう少し増やすことで、小さな目標が出来、資格を取得するなどのスモールステップがあれば、退学率も減少するのではないか。全員で合格を目指すのは難しくても、学校が事前に情報提供して機会を増やすのも良いと考える。検定に向けて頑張ろうと思える生徒も増えるのではないかな。

＜柳委員＞

高校では積極的に実施している。英検や TOEIC 以外にも歴史検定、数学検定等がある。予想以上に希望者が多く、農業検定においては 20 名程度の希望者がいた。自主勉強ではあるが、学校で受験できることが良い。卒業後の進路をどのように把握しているか？

＜中野副校長＞

教育開発部を中心に、SANKOGATE で卒業後にアンケートを実施している。

＜廣畑さん＞

同級生や人事の方から情報を得ることも多い。今後は公式 LINE で確認ができると良い。

＜柳委員＞

クラス運営では高校の場合はクラス担任制の方が良い。誰に相談するかが明確になるが、先生との相性も大切である。専門学校の場合は角度を変えて対応し、全体で見ることができる。中学校の場合は担任と副担任で分けていることが多い。組織の状況に応じて変えるのも良いのではないかな。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

トップ層への十分な支援体制としては強化が必要。保護者との連携は必要に応じて行えているが、中途退学者への支援、高等学校・高等専修学校との連携が必要。

② 今後の改善方策

卒業生や中途退学者からの問合せ窓口の体制整備を強化する。卒業生対象にWEBを利用した発信環境の整備が進んだためそれを活用して卒業生支援も強化する。就職支援に関してはWEB面接を導入する企業も増加傾向にあるので学内にてWEB面接が受けられる設備をさらに整え生徒をサポートする。高校との連携に関しては高校への案内や訪問校数を増やし職業教育を高めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<堀委員>

卒業生がお店に来て聞いてみると、同級生の情報はほぼ知っている。最近は SNS での情報も多いと感じる。縦横のつながりを学校としても把握の質を上げてほしい。

<柳委員>

現在の学生生活が楽しい学生は学校に遊びに来る。辻学園へ進学を決めた学生の中には、文化祭の体験で楽しいと思って入学を決めた生徒もいるが、入学後のギャップで退学になることもある。

<廣畑さん>

本校では、レストラン実習で一般販売をしているので、卒業生が食べに来ることも増えた。また教員採用も卒業生が増え、さまざまな情報を得やすい環境にはなっている。

<平野委員>

同期で仕事に悩んでいる姿も見ている。話を聞いてくれる環境があるのはありがたい。ただ、もっと卒業生へのアプローチを増やしてもらえると悩みを早く理解できると感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

館によって機器の整備が必要

② 今後の改善方策

施設の修繕・設備の交換を随時対応する。

インターンシップ受入れ企業に関して従来の訪問に加え、卒業生就職先訪問を強化し、受け入れ先企業を更に開拓する。

③ 特記事項

全生徒・教職員の避難訓練を実施。

避難場所への移動を確認。

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜堀委員＞

やはり空調など経年劣化を感じることもある。可能であれば今後も最新の機械を導入できると生徒にとっては良い環境で学べるので機器管理はしっかり実施してほしい。

＜柳委員＞

高校では避難訓練を事前に告知をし、生徒が集まった際に実施している。

避難経路の確認や、実際に公園に行ったりしている。

感じることは、教員がしっかりと把握する必要がある。

常勤の先生含め、非常勤の先生方にも把握いただく機会は常に必要なものでこれからも継続してほしい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

調理師科の募集に関して定員充足に至っていない。

② 今後の改善方策

引き続き教育成果に関する情報が正確に伝わる工夫を継続し、適正な募集を継続する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜柳委員＞

調理師科が少ない原因はあるのか。

＜中野副校長＞

2024 年度は定員 50 名に対し、34 名在籍した。2 年間しっかり学びたいという生徒が多いためだと考えられる。

既卒者や通信制高校の生徒たちのニーズに合わせて募集を充実させたい。

＜柳委員＞

1 年よりは 2 年、2 年よりは 3 年ゆっくり学んでいきたい生徒が多いと感じる。

ゴールは社会人としてしっかり毎日働くことで、そのためのステップアップとしてやっていこうということを学内では発信をしている状況である。通信制の高校もさまざま、他校では全く登校しないこともあるが、本校では登校する回数も多いことが特徴である。専門学校や大学も今は週 3・4 回通う学校が増えてきている。

また、現在の生徒にとっては土日が休みという感覚があまりない様子で、現在も土日に授業があっても特に意見などは上がっていない。そこを踏まえると今後は土日に授業があっても問題ないのではないかと感じる。

ただ教員側の働き方を考えると難しいところではある。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

継続的な適正法令順守を行うために会議や校内掲示物を通じて、すべての教職員の法令順守に対する啓蒙を継続的に図る。

学校情報の内容を正確に精査し情報公開に努め、あわせて教職員対象のコンプライアンス研修を行う。

③ 特記事項

個人情報の保護・管理について学校外への流出なしを徹底に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き産官学連携を実施し、地域貢献及び企業との連携を強化する。

③ 特記事項

現在、飛騨市・3企業との産学連携を継続中

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜柳委員＞

過去は小学校の際に、地域でゴミ拾い等のボランティアもあったが少なくなっているのではないかと。

SNSなどが発達し、生徒自らがオンラインで自主的にコミュニティーを作り、中心となってボランティア活動などを実施している生徒も増えているように感じるので学びの場は今後も提供してほしい。

＜平野委員＞

自身も産学連携で地産地消をテーマに取り組んだが、自分で献立を考え、プレゼンを行えたのはとてもいい財産になっている。今後もぜひ続けてほしい。

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

留学生の就労ビザ取得に伴う就職先開拓

② 今後の改善方策

行政の施策を情報収集し、留学生受け入れ先の企業開拓を強化する。

③ 特記事項

2024 年度 留学生 2 名

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜堀委員＞

留学生が入学する際に、何か条件があるのか。

＜中野副校長＞

N3 程度の語学力が必要。授業中に翻訳アプリを使用している留学生もいる。

＜柳委員＞

日本語があまり話せない留学生が入学すると、授業についていくことなど様々な点で難しいのか。

＜中野副校長＞

やはり難しいと感じる。

＜平野委員＞

今、働いている現場に外国の方が多くいるが、どの方も前向きに働いている。今後も増えてくイメージもあるので技術や知識をしっかりと教えてあげてほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

入学者募集は安定した人数を得ている状況。

退学率も前年より減少し、生徒の満足度もいい傾向だが、多様化する学び方(IT の活用等)に対応するために設備の充実と生徒指導の統一徹底を行い、選ばれる学校であり続けるための施策を今後も実施する。

<柳委員>

安定した募集人員や教務の取り組みは理解できた。

細かいところでの検討や課題にしっかりと対策を取り組んでほしい。

取り巻く環境が日々変化する中で、高校も生徒一人一人にいい進路に向かってほしいことを望んでいる。

受け皿となる専門学校には専門性を活かした技術力・人間力の教育指導を今後も期待している。

<堀委員>

生徒の成功体験ができる機会をもっと増やすことが安定した学校運営につながると感じたので、いい学びが継続できるように今後も健全な取り組みをお願いしたい。

<平野委員>

2年間過ぎて技術研鑽ができる機会があったのはとても嬉しかった。

自分が行事に多くかかわったのもあるが、行事に関わることの大切さ(協調性や人間力が上がる)をこれからも教えてあげてほしい。